

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	歴史のまちイメージづくり事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 神谷明裕
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			③基本施策	観光	コード	3-3-4
					④単位施策(中)	観光PRの推進	コード	3-3-4-1
	②項	産業振興			⑤単位施策(小)	歴史のまちのイメージづくり	コード	3-3-4-1-2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	歴史に興味のある県内外の人々		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	三大古戦場のひとつである「桶狭間古戦場伝説地」の名称とともに歴史のまち「豊明市」のイメージが広く定着している。			
1-5 事務事業の内容	①地元の人が地元の観光資源を知らない事があるので、地元の人に愛着を持ってもらうようPRしていく。②史跡桶狭間古戦場伝説地の公園内に大型の観光案内版を設置してPRに努める。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	観光ガイドマップの作成を企画しているため、参考にするため資料収集、先進地視察を行った。	国、県の施策として魅力ある観光地づくり等の推進をPRしていくことが求められている。	市民ニーズを把握するには、アンケート調査を実施する必要があるが経費の面から難しいため、古戦場まつり参加者から意見、要望を聞き取る。		
平成19年度	観光ガイドマップの素案を作成するために資料収集や現地確認等を行った。	〃	〃			
平成20年度	〃	〃	〃			
平成21年度	史跡等をPRするため、県の武将観光100選に応募桶狭間古戦場伝説地等3箇所が選定された。	市単独ではなく、今後も引続き広域の中で史跡等のPR事業を展開していくことが求められている。	県観光協会等が主催するモニター・ツアー参加者のアンケート調査結果を参考にしつつ古戦場まつり実行委員会の意見・要望を聞き取る。			
平成22年度	武将という人物にスポットをあてると、市単独ではなく広域で活動の中で史跡等をPRしていくことが効果的であるので、地元の方などの意見も聞きながら進める。					
平成23年度	武将という人物にスポットをあてると、市単独ではなく広域で活動の中で史跡等をPRしていくことが効果的であるので、地元の方などの意見も聞きながら進める。					
平成24年度	武将という人物にスポットをあてると、市単独ではなく広域で活動の中で史跡等をPRしていくことが効果的であるので、地元の方などの意見も聞きながら進める。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明	
	「桶狭間古戦場と周辺史跡めぐり」講座の参加者(人)		60(人)	60(人)	・1回定員30名 ・年2回開催 ・講座参加者のうち市外の参加者割合を5割目標とする。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	事務事業成果指標										
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動実績 a(単)	7(回)	7(回)	7(回)	9(回)	7(回)	9(回)	5(回)				
直接事業費 b(千円)	0	0	0	0	0	0	0				
人件費 c(千円)	243	243	243	269	260	252	252				
合計コスト d(b+c)(千円)	243	243	243	269	260	252	252				
単位コスト d/a(千円)	1人当たり 35	1人当たり 35	1人当たり35	1人当たり30	1回当たり37	1回当たり28	1回当たり50	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 人件費(事務) 2名×3日×8h×3,000円=144,000円 (会議・研修) 1名×9日×4h×3,000円=108,000円 活動実績は、会議と研修会の回数

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	0	0	0	0	0	0	0			
	後期目標値に対する達成度(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	B	B	B	B	B			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	観光ニーズの変化を捉えた上で、興味を持てる観光情報を発信できるようにすること。	国、県が推進する地域観光促進事業等の情報を収集し、特色ある地域観光情報が発信できるように取組む。	史跡の案内情報として活用されているが、歴史のまちのイメージに結びつく情報発信の内容にはなっていない。	観光ガイドマップの素案を作成するために資料収集や現地確認等を行った。	
平成19年度	桶狭間古戦場の知名度を高めるため他市町と連携して取り組むこと。		〃			
平成20年度	〃		〃		観光ガイドマップの内容を史跡紹介以外のお店情報等も盛り込むための資料収集に努めた。	
平成21年度	県の武将観光100選に、桶狭間古戦場伝説地等3箇所が選定されたので、引き続き他市町と連携してPRに取り組む。		〃		武将観光の推進をテーマに関係市町と連携してPR活動に努めた。	
平成22年度	県の武将観光100選に桶狭間古戦場伝説地等3箇所が選定されたので引き続きPRしていく。さらに地元の方が県が推進するあいち観光まちづくりゼミへの参加をしており、市内史跡をめぐるモデルコースをゼミの中で発表しているの、参考となるものは積極的に取り入れPRしていく。					
平成23年度	県内の観光事業者や観光協会・行政が一堂に会し、地元の隠れた名産・名物などを探し、繋げるモデルツアーを企画する場である「愛知観光まちづくりゼミ」へ参加し、広域的な観光を考えることができた。今後本市だけにとどまらず、広域的な観光も視野に入れて考えていきたい。					
平成24年度	県内の観光事業者や観光協会・行政が一堂に会し、地元の隠れた名産・名物などを探し、繋げるモデルツアーを企画する場である「愛知観光まちづくりゼミ」へ参加し、広域的な観光を考えることができた。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	B	具体的な講座の手法を検討するとともに、歴史イメージづくりに努めること。	
平成20年度	B	具体的な講座の手法を検討するとともに、歴史イメージづくりに努めること。	
平成21年度	B	具体的な講座の手法を検討するとともに、歴史イメージづくりに努めること。	
平成22年度	B	具体的な講座の手法を検討するとともに、歴史イメージづくりに努めること。	
平成23年度	B	広域的な観光も視野に入れつつ、歴史イメージの定着に務めること。	
平成24年度	B	広域的な観光も視野に入れつつ、歴史イメージの定着に務めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			